

## 倉石・日中学院の歴史写真デジタル化に関する報告と今後の計画

### 【経緯】

2022年度の理事会において、校友会活動の一環として学院に所蔵されている写真のデジタル化に着手することが決定されました。この議を経てシンプルデザインに1,500枚の見積書を出していただき、金額は低く見積もっても55万円(税込み)かかることがわかりました。費用については小松学院長と相談をし、学院と校友会で折半(各275,000円)で捻出する方向が出されました。そして、8月9日に業者の選定と費用について、理事の方々にメール審議に諮り、賛同が得られました。

その後、同年9月に事前準備、10月に1,500枚を目標に作業が進められました。工程と担当は以下です(詳細は唐涛理事より)。

### 【各工程と担当】

- ・ 学院の教室で写真の選定と付箋張り、ナンバーリング、写真に関する情報をメモ書き、自宅で写真のキャプションをつけ一覧表を作成(担当:加納)無償
- ・ 学院の教室で一覧表を基に写真をスキャン(担当:唐涛)無償
- ・ 写真の補正・修正(業者)有償
- ・ キャプションの校正、時系列に並べ替え、一覧表作成(担当:加納)無償
- ・ 写真の時系列に並べ替え、写真にキャプションの書き込み、CD作成(担当:唐涛)無償

### 【作業結果】

作業、作成にほぼ8か月要しました。作業を進める中で写真のダブリや酷似した写真が見つかり、その結果、1,400枚余をCD化しました。時系列で1951年の倉石中国語講習会設立から1975年(倉石学院長時代)までを完了させましたが、1976年以降の藤堂学院長時代の写真も一部収載されています。写真の構成は以下です。

### 【写真の構成】

倉石中国語講習会・日中学院の歴史を写真で紡ぐ

- ▶第一部 倉石中国語講習会 倉石武四郎会長(1951-1967)
- ▶第二部 日中学院 倉石武四郎学院長(1964-1975)
- ▶第三部 日中学院 藤堂明保学院長(1976-1985)

※別科の学期のキャプションは写真に映し出されたものとズレがあります。1970年代半ばに講習会創設から通しでのカウントに変更されるようになりましたが、1980年代半ばに誤りがあることに気づき修正され、それが『藤堂明保 中国へかける橋』(1987)に反映されました。本写真のキャプションは後世の人たちが見てわかるように配慮し、同書に準拠しました。

### 【今後の計画】

2023年度は継続して1976年以降を対象に実施し、藤堂学院長時代の1985年までを目途にいったん区切りをつけたいと考えています。理由としては1950年代～70年代と違い写真の劣化がそれほど目立たず、また85年以降はアルバムも整理されていることから、その時代に疎い学院関係者でもデジタル化(キャプションづけも含め)ができると判断しました。

今年度以降は残りの1,000枚(推定)を選定しデジタル化作業をするのに、昨年度の経験から単年では、負担が大きく困難なことから2年計画を提案したいと思います。作業の進め方として、今年度、650枚、次年度(2024年度)350枚、それと合わせ、3階倉庫に眠っている倉石先生の手稿や善隣学生会館関係資料のデジタル化を考えています。紙質や印刷が悪く経年劣化が心配され、貴重な学院の資産が歴史に埋もれることがないように、資料を後世に残すべく早急に着手することが望まれます。この作業は写真のデジタル化のように1枚ごとにキャプションをつける必要がなく、ブックスキャナーを購入すれば、業者への補正・修正依頼は不要で、経費の負担が少なくて済みます。

上記の理由で2年計画で写真のデジタル化と倉石先生の手稿のデジタル化を進めることができればと考えます。

費用等に関しては、見積書をご参照ください。

### 【保存媒体の取り扱い(案)と有効な活用法】

以下は昨年(2022.8.8)写真のデジタル化のメール審議で配信した文言です。

1. 被写体には個人情報が含まれることが想定されるため、学院の許可のもと学内限定で閲覧できることとし、基本的に持ち出しとコピーは禁止とする。
2. ただし、上記の媒体を利用して学院関係の出版物などに使用することはできる。その場合、学院の許可を必要とする。

※上記はあくまで個人的(加納)な提案であり、取り扱いの詳細については学院の規則に従う。

上記につきまして、学院のほうで保存媒体の扱い方について、ご検討をお願いします。

また、デジタル化の完成後、有効に活用できるよう理事の皆様のアイデアやご意見をお寄せください。

2023年6月24日

担当理事 加納陸人